FGC NEWS

No.11 August 2017

公益財団法人 世界こども財団
FGC−Foundation for Global Children

海外支援・交流活動

- 宮澤保夫副理事長に外務大臣表彰
- エリトリア、独立記念週間のアスマラを訪問
- エリトリア留学生の高校生活がスタート
- ブータン王国と事前キャンプ協定締結
- ブータンへ陸上競技コーチ派遣
- ミャンマーオリンピック委員会と協定締結・陸上競技、柔道代表チームを支援

東日本大震災支援活動

- 南相馬市小高区での活動報告

- SEISA コミュニティ FM 湘南マジックウェイブ開局！

宮澤保夫副理事長が外務大臣表彰を受賞しました

平成 29 年度外務大臣表彰に宮澤保夫副理事長が選出され、7 月 6 日 (木) 外務省飯倉別館で行われた授賞式に出席しました。岸田文雄外務大臣が急遽、ベルギーへのご出張のため、薗浦健太郎外務副大臣より授与いただきました。

この賞は、国籍を問わず日本と諸外国との友好親善に務めた方の中で、特に顕著な実績のあった個人および団体について、その功績を称えるものです。

宮澤副理事長は、1970 年代より個人として国際協力活動を開始しました。以来、星槎グループ創設者・会長として、そして世界こども財団の創設者（2016 年より副理事長）として、アジア・アフリカの途上国を中心に活動を続けてきたことが評価され、今回の表彰となりました。

これまでの活動の歩み

1975　教育に関わる国際的な支援活動を開始
1989　ラオスの国営放送局に技術指導団派遣
1990　バングラデシュの国政放送局に技術指導団派遣
1993　エチオピアの国営放送局に技術指導団派遣
　　エリトリアの高等技術学校に技術指導団派遣
1995　ブータンに寄宿舎建設支援・国外留学生支援
　　・聴覚訓練機器支援
　　サイパンに学費支援（バート・トンプソン・スカラシップ）
　　イエメンに医療・通信指導
1997　ラオスに僻地医療・無線指導
2001　ブータンに青少年科学育成基金支援
2002　アラスカ大学に科学研究資金支援
2007　アジア知的障がい連盟への支援

2010 年 一般財団法人 世界こども財団 設立（2015 年 公益財団法人化）

【アジア・アフリカ諸国での主な活動例】

ブータン
ロイヤル・ティンプー・カレッジの短期留学生支援
高校留学生支援・医療支援
2020 年東京オリンピック・パラリンピック参加支援

バングラデシュ
チッタゴンのアグラサーラ孤児院の自立運営支援
孤児院施設内に縫製工場建設支援

カンボジア
地雷により障がいを持った人や孤児のための職業訓練施設支援

エリトリア
教育・スポーツ支援
長期スポーツ留学生支援
2020 年東京オリンピック・パラリンピック参加支援

ミャンマー
医療・教育環境の整備支援
高校生の短期留学支援
2020 年東京オリンピック・パラリンピック参加支援

ネパール
ネパール大震災支援（緊急物資、こどもたちへの制服提供）

今回の外務大臣表彰は宮澤副理事長の個人受賞ではありますが、世界こども財団としても、世界のこどもたちの笑顔のため、一層の貢献を目指して活動してまいります。今後ともみなさまのご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

（FGC　太田啓孝）

インディペンデンス・ウィークに熱狂するアスマラを再訪

アスマラのこどもたちとともに

ゼメデ・テクレ文化・スポーツ庁長官からの正式招待を受け、2017年5月18日（木）～30日（火）まで宮澤保夫副理事長がエリトリア国の首都アスマラを訪問しました。今回は星槎グループの創作和太鼓集団 打鼓音が帯同しました。滞在中の5月24日（水）は同国にとって26回目の独立記念日でした。その前後は「インディペンデンス・ウィーク」と呼ばれ、国を挙げてさまざまなイベントが行われました。

エリトリア国とは留学生プログラムをはじめ、すでにさまざまなプロジェクトが動き出し、実績も上がっていますので、関係団体とのミーティングは極めて率直かつ実務的に進みました。まずオリンピック委員会とは2020年に向けた準備が進んでいる旨確認しました。特に陸上競技、自転車競技では従来の大会を凌駕する規模と質で参加できると自信を覗かせていました。加えてスポーツ全体のレベルが上がっており、特に水泳と卓球では有望選手が出てきているので、今後の成長次第で支援プログラムを検討することになりました。一方、パラリンピック関係については、エリトリア・パラリンピック委員会として、IPC（国際パラリンピック委員会）への加盟手続きを進めており、近々加盟が正式に認可される見通しである旨報告を受けました。種目については個人種目での参加を検討していますが、具体的には候補選手の発掘、成長をみて、両者で検討していくことを約束しました。

また、今回エリトリア政府の対応もこれまでと大きく変わってきていました。スポーツ分野での協働、打鼓音による文化交流が政府内でも広く認知され、世界こども財団、星槎グループへの評価、期待が高まっていました。その表れとして、オスマン外務大臣、アレファネ農業大臣をはじめとする重要閣僚への表敬訪問ばかりでなく、与党政党幹部、労働界との会談もセットされ、宮澤副理事長は多忙なスケジュールをこなしました。その中でも、ハイライトはイサイアス大統領との会談でした。5月26日（金）の朝、突然ゼメデ長官から電話が入り「これから大統領が会いたいと言っている」と言われ、長官の車で会談場所へ急遽向かうことになりました。ただ、車は市内の大統領官邸に向かったのではなく、郊外へ向かいました。市街を外れて30～40分走った後、車が止まったのはダムの建設現場でした。エリトリアでは水不足が深刻で、国民の食糧確保、増産の観点からダム建設が重要な国家

第 26 回　独立記念式典の様子

プロジェクトとして進められています。大統領自身、この建設現場に小さな小屋を建て、毎日午前中はそこで工事の進捗状況をチェックしながら執務を取ることが多いと伺いました。しかし、その小屋での面会はほぼ閣僚、側近に限られ、ましてや外国からの訪問者をそこで迎えることはないとのことでした。これを見ても対応が異例ずくめであったのがわかります。宮澤副理事長が到着すると、その「小屋」に招き入れられました。広さは５×８ｍ程度しかなく、執務机が置かれているだけでした。そこで、大統領ご自身の口から、世界こども財団、星槎グループによる支援、そして今回の打鼓音の派遣に関し感謝の意が述べられ、これからも両者の関係を発展させ、エリトリア国・日本両国の友好促進につなげていきたいとの言葉をいただきました。それを受けて宮澤副理事長からはオスマン外務大臣、ゼメデ長官を来年の早い時期に招聘したい旨提案を行い、大統領からも肯定的な意見をいただきました。その他にも多様な事項に関し率直な意見交換がなされ、会談は１時間以上に及び、同席したゼメデ長官も驚くほどでした。

この大統領との会談直後、ゼメデ長官より、初日に宮澤副理事長が提案していた「エリトリア・日本友好協会」設立を進めるための覚書を締結しようとの連絡を受けました。これは明らかに大統領との会談が良い方向に働いたものと思われます。そして５月 29 日（月）ゼメデ長官と宮澤副理事長の間で署名式が行われました。これにより双方の連絡事務所が文化・スポーツ庁、世界こども財団・星槎グループにそれぞれ設置されることになりますので、両者、両国の関係が更に発展することが期待されます。　（FGC　小泉博）

独立記念式典にて、外交団 VIP 席に招待された宮澤副理事長（写真左はエリトリア陸上競技連盟のタデッセ事務局長）

ダム建設現場にて、イサイアス大統領と

創作和太鼓集団 打鼓音 アスマラ訪問記 言葉をこえて、響きあう 日本とエリトリアの友好！

シネマ・アスマラでの公演後
（写真中央はゼメデ・テクレ文化スポーツ庁長官）

今回のアスマラ訪問には、星槎グループの創作和太鼓集団「打鼓音」の９人のメンバーが同行し、インディペンデンス・ウィークの行事の一環として３回の記念コンサート（5/19　シネマ・アスマラ、5/21 シティー・パークのメインストリート、5/25 シネマ・ローマ）と、独立戦争中に傷ついた元兵士とその家族の暮らす「デンデンキャンプ」と呼ばれる地域での演奏・交流を行いました。どの公演でも、ゼメデ・テクレ文化スポーツ庁長官、副大統領、外務大臣をはじめとするエリトリア政府関係者や、アスマラ在住の外交団が会場を訪れ、国全体をあげて歓迎していただき、打鼓音の演奏に立ち上がっての拍手をいただきました。打鼓音のメンバーにとって特に印象的だったのは、デンデンキャンプでの交流だったかもしれません。地域のこどもたちが、彼らの訪問を喜んでくれ、みんなで一緒に和太鼓演奏を体験する時間も持つことができました。シネマ・ローマでの公演後、ステージに招かれた宮澤副理事長は「日本とエリトリアは遠く離れています。今回の太鼓で日本を少しでも知ってもらえたのではないでしょうか。遠く離れていても我々は同じ地球に住んでいます。お互いのことをよく知ることが大切なんです。『人を認める』『人を排除しない』『仲間を作る』この理念に基づき我々はともに歩んでいくことが大事である。だから、ともに歩んでいきましょう」と語りかけました。打鼓音のメンバーにとっても、自分たちの活動を見つめ直すいい機会になったアスマラ訪問でした。　（FGC　太田啓孝）

打鼓音メンバーより

打鼓音　安村 聡理

遠征中、３回大きな舞台で演奏させていただきましたが、どの演奏でも沢山の方々が和太鼓に興味を持ち、聴いてくださったことがとても嬉しく思いました。今回の遠征の中で一番心に残っている交流はデンデンキャンプでの交流です。太鼓の音が鳴り始めると食い入るように、目をキラキラさせながら演奏を見る姿、言葉はなくても和太鼓の音色を通して心が繋がったことを実感できた瞬間でした。一緒に楽しむこと、喜ぶことなど一緒に体験して共感することで言葉を超えた心の交流ができるのだと思いました。自分が体験させていただいたことを沢山の方々に伝えていきたいと思います。

デンデンキャンプでこどもたちと和太鼓体験

エリトリアからの留学生デジェン君、アヌール君の高校生活スタート！

日本に来てから３カ月、寒かった冬も終わり、暖かい日差しに心も弾む４月、エリトリアの留学生デジェン君とアヌール君は、晴れて星槎国際高等学校湘南学習センターに入学しました。入学式では壇上に上がり、職員や来賓の方々にも挨拶をし、素晴らしい門出になりました。新しいクラスメイトと共に学び、スポーツに励んでいく、これからの学生生活に二人はワクワクしていました。

アヌール君は、５月に行われた、2017 インターハイ神奈川県西地区予選会に 1,500m で出場し、県大会まで進みました。県大会の当日は天候が悪く、気温も低い中でレースをすることになり、経験の少ないアヌール君にとっては、厳しい条件になりました。残念ながら関東大会までは進むことが出来ませんでしたが、それでも結果、４分 10 秒 24 という好成績を残しました。

またスポーツだけではなく、文化交流にも積極的に参加し、エリトリア大使館が開催し、世界こども財団、星槎グループも協賛しているエリトリア独立 26 周年記念写真展「エリトリアー自由を感じて」の会場も訪れました。写真を通じて、自分たちが生まれる前におきた革命前後のエリトリアの様子に思うところがあるのか、２人はじっと見入っていました。独立記念日に合わせ東京で開催されたこの写真展は、その後 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会でのエリトリアの事前キャンプのホストタウンである小田原市、箱根町、大磯町も巡回しました。

そして、星槎の仲間たちとの交流も忘れません。６月には星槎学園高等部湘南校での交流会に、特別ゲストとして参加しました。好奇心旺盛な生徒たちの質問に丁寧に答え、エリトリア式のじゃんけんなども披露し、友好を深めました。また 2020 年に向け、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と星槎グループが推進する「SKY（スカイ）プロジェクト」のイベントでは、修学旅行で大磯を訪問中の星槎名古屋中学校の生徒たちに、陸上部のメンバーとして、走り方などを教えたり、イベントの最後には、全員で自分たちの夢を描いた紙

エリトリア写真展にて、遠く日本から祖国を想う二人

飛行機を一斉に飛ばしました。デジェン君とアヌール君の夢は、2020 年の東京オリンピックに出場することです。星槎で学びながら、夢に向かって頑張る二人を、みんなで応援していきたいと思います。

（FGC　小野木愛）

ブータン王国との事前キャンプ協定を締結！

協定締結式にて（写真左より：中崎大磯町長、山口箱根町長、加藤小田原市長、黒岩神奈川県知事、ジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下／BOC 会長、FGC 宮澤副理事長）

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会におけるブータン王国選手団の事前キャンプを神奈川県に招致する協定が、2017 年 4 月 13 日（木）に横浜で締結されました。協定書には、神奈川県の黒岩祐治知事、小田原市の加藤憲一市長、箱根町の山口昇士町長、大磯町の中崎久雄町長、星槎グループ会長として世界こども財団の宮澤保夫副理事長、ブータン王国からは、同国オリンピック委員会（以下 BOC）会長であるジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下が第 5 代ブータン国王の名代として、署名しました。この 6 者による協定は、事前キャンプだけに留まるものではありません。オリンピック･パラリンピックを超えて、また、スポーツの分野を超えて、ブータン王国との民間レベルでの友好交流をより強固にする礎となるものです。

陸上競技中長距離集中トレーニングを実施

世界こども財団、星槎グループではさっそく、スポーツを通じたブータン王国への支援、交流のプロジェクトを本格化させています。その第 1 弾として、ブータン陸上連盟中長距離選手 23 名と強化トレーニングを 2017 年 5 月 15 日（月）から 25 日（木）までの 10 日間実施しました。参加最年少は 12 歳から最年長は 22 歳の選手たちが、放課後の時間帯に集まり、ブータンの首都ティンプー市内にあるブータン・アマチュア陸上競技連盟（BAAF）の陸上競技場にて密度の濃い練習を積んできました。

現地に派遣された星槎アスレチッククラブ陸上コーチの田中由一氏は、自身の卓越したスキルと知識と経験をもとに、その情熱と熱心な指導方法で、プログラムを展開しました。言葉と文化の壁を物ともせず、笑顔溢れるトレーニングを実施することができました。

参加した選手たちは、新しく知ることになった科学的根拠に基づくトレーニング方法、個々に合わせた指導計画を、見る見るうちに吸収し、競い合う場面や助け合う場面が生まれ、時にはコーチや仲間と共に、フォームを確認し、教え合う場面も見られるようになりました。お互いが切磋琢磨し、高め合い、学び合う環境が新たに生まれた瞬間でした。

また、週末には、ティンプー市内の学校の先生やスクールスポーツインストラクターが集まりコーチングクリニックも開催しました。午前は座学、午後は実技指導が行われ、計画では 2 日間の予定でしたが、参加者からのたっての希望で追加 1 日となりトータル 3 日間行うこととなりました。こちらも選手のトレーニング同様盛況で、20 人強の先生が参加してくださいました。クリニック終了後も残る先生がおり、熱心に田中コーチの実際の指導場面を見学したり、見学だけで我慢できず、一緒に体験する先生も出てくる程でした。

参加したみなさんからは、「早く田中コーチに戻ってきてほしい！」という嬉しい声をたくさんいただきました。その声に応えるため、田中コーチはさっそく、この 7 月から今度は 2 ヶ月に渡ってティンプーに滞在し、第 2 回となる陸上中長距離集中トレーニングを実施します。

陸上競技トレーニングの参加者と

陸上競技のコーチ派遣だけでなく、日本へのスポーツ奨学生の受け入れが秋に始まるなど、ブータンへのスポーツを通じた支援と交流、そして両国の友好のための活動を、さらに進めていきます。　（FGC　石田博彰）

熱心に指導を行う田中コーチ

ミャンマーオリンピック委員会（MOC）と“Myanmar Japan Sports Collaboration”の協定を締結

2017年4月、宮澤保夫副理事長が3月に引き続きミャンマーを訪問、ミャンマーオリンピック委員会（MOC）と協定書（Letter of Agreement）を交わしました。本協定書はエリトリアやブータンと同じく、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会を契機として、さらに未来へと続くスポーツを通したミャンマーの青少年育成と両国の友好を目指すものです。

協定書に署名した宮澤副理事長とMOC事務局長のMyo Hlaing氏

SEA Gamesへ向けて—ミャンマーの陸上競技、柔道代表チームへの支援

本協定に基づき、4月より村田剛さん（東京農業大学卒、35歳）が現地入りし、ミャンマーの陸上競技ナショナルチームのコーチとしての活動を開始してます。村田さんはまずは8月にマレーシアで開催されるSEA Games（東南アジア競技大会）を目指してミャンマーの若きアスリートたちのため、毎日共に汗を流し、大会へ向けた中国・昆明への高地トレーニング遠征にも同行しています。

星槎道都大学で歓迎を受ける一行

6月には同大会へ向けたミャンマーの柔道チームの日本でのトレーニングキャンプの要望に対して、北海道の星槎道都大学での受け入れを開始しました。星槎道都大学の柔道部は、団体、個人においても何度も北海道で優勝し、全国大会に出場している強豪です。ミャンマーの柔道チームは6月28日（水）に北海道に到着し、その翌日から星槎道都大学柔道部との合同練習を開始しました。これから7月末まで、北海道に滞在し、ミャンマーに比べ格段に涼しい環境での集中的トレーニングを実施します。高校生への奨学金プログラム等も進めており、事前キャンプ協定締結を含め今後一層の協働をすすめていきます。

（FGC　石井洋祐）

星槎道都大学柔道部との合同練習を開始

村田剛コーチ ミャンマー現地リポート

ミャンマーに来てまず初めに思ったことは恵まれている環境だな、ということです。メイングランドは日本の中級以上と言えると思いますし、器具も一通り揃っています。ウエイトトレーニング場は空調もしっかり効いて快適にトレーニングすることができます。居住環境もいわゆる選手村での共同生活で３食付きです。ミャンマー特有の脂っこく辛い料理はスポーツ選手にとって疑問に思いますがそもそも育って来た環境（内蔵）も違いますし、自炊してしまえば解決してしまいます。唯一、競技をする上（特に長距離）でマイナスであると感じるのは気候です。

とにかく暑いです。５月で日中は 40℃近くまで上昇します。早朝以外は練習に集中するのはなかなか厳しいと言えます。しかし選手には事前にトレーニングの趣旨を説明して、少し早めに起床をしてもらい、エネルギーを補給して、気温が上がらないうちにトレーニングを終わらせてしまう。これである程度は解決できています。

私が事前に１番懸念していたことが言葉の壁です。

ミャンマー語は今までの人生で１度も触れる機会がありませんでしたし、恥ずかしながら英語もうまくありません。しかし今では現地のコーチや選手とそれほど不自由なくコミュニケーションが取れています。それは決して私の語学が上達したからではないと思っています。とにかく積極的に話しかけます。ミンガラーバー（こんにちは）に始まり、この人は何か伝えたいんだなと思ってもらうことが大切だと考えています。スポーツを通じて、何かを伝えたい。また何かを吸収したい。お互いの気持ちがあってこそだと思います。

選手にとって日々の娯楽といえば音楽や TV 鑑賞、そしてインターネットです。

インターネットで彼らはよく海外の選手の動画を観ている。そこには日本人の有名選手も含まれています。スポーツをする上で「私は〇〇人だから」といっているうちはダメだとよく話しています。自分が今いる環境で、いかに工夫して競技に取り組んでいくか。これが大切であると私は思います。

主観ではありますが、ミャンマー人が決して日本人と比べて身体能力的に劣っているとは思いませんし、知らないことが多いのかな？ と思うことはありますが、色々と思考を変えてもらったり自分自身が強くなりたい、速くなりたいと思う気持ちさえあれば今後のミャンマー陸上競技は伸び代が十分にあると思います。

今は８月の SEA Games に向けてミャンマーチームの１人として戦っています。この活動が終わった時に、ミャンマーの方にずっとサポートしてほしい、といってもらえるように日々精進していきたいと思います。

ミャンマー陸上競技代表チーム

SEA Games に向け中国へ
（写真後列、左から５番目が村田コーチ）

2017年4月 南相馬市 小高小・中学校にこどもたちが戻ってきました

南相馬市立小高小学校

世界こども財団の教育環境支援班では震災直後より相馬市内の被災した小中学校カウンセリング事業を開始し、2012年4月より文部科学省の緊急カウンセリング派遣事業として南相馬市小高区にある小中学校へもスクールカウンセラーの派遣を始めました。

小高区は震災・原発事故以後に警戒区域となり、2012年4月16日に解除されるまで立ち入りが制限されていました。小・中学校は南相馬市鹿島区の鹿島小学校に1中学、2小学校、鹿島中学校に3小学校が仮設校舎を併設して学びをスタートしました。

その後、2016年4月に南相馬市小高区は避難解除され、沿岸部の地域のコミュニティーは崩壊したままですが、内陸の常磐線小高駅周辺の商店街には徐々に活気が戻りつつあります。

2016年4月、小学校は小高小と福浦・鳩原・金房の4校合同の仮設校舎にて新学期をスタートしました。鹿島区の仮設校舎で運営してきた小高中学校では、小高区の震災遺構について生徒に伝える授業を企画するなど、震災5年の節目を越え「原点に戻って故郷を考える」ことに取り組んでいます。こどもたちは震災による一次的なストレス反応は減少しているものの、相も変わらず健康診断・内部被ばく検査・外部被ばく検査・甲状腺検査などの検査を定期的に受けるなど、被災地の中においても他の地域にはない精神的な負担がかかっています。現状を受け止めながら学校生活を過ごしています。

2017年4月、それぞれの仮設校舎は撤去され、小高小学校と小高中学校にこどもたちが戻ってきました。

（星槎グループ　尾﨑達也）

緊急カウンセラー等派遣事業として教育環境支援班が小高区で実施したカウンセリング等

学校名	実施期間	カウンセリング			コンサル	行動観察	情報交換	心理教育
		生徒	教員	保護者				
小　高　中学校	2012～2017	495	16	41	96	234	283	2
小高区4小学校	2012～2017	357	112	44	213	830	433	2

福島県南相馬市小高区の4つの小学校のスタート

星槎教育研究所　今中紀子

―避難解除に伴い、仮設校舎から本校に戻って―

緊急カウンセリング事業の一環として南相馬に通って6年目。今期4月の訪問は、綺麗に整った元小高小学校の本校舎でした。鮮やかな緑色の人工芝の校庭でこどもたちが、元気に走り廻り、手を振ってくれました。4校合わせても100名足らずですが、卒業しても立ち寄れる校舎を手にしたこどもは、ここからまた新たな歴史を作って行くことになると思います。
こどもたちが安心して、充実した小学校生活が送れるように、また将来にまだ不安の大きい保護者の方の声も聴きながら、少しでも復興のお手伝いができるよう、楽しんで頑張りたいと思っています。

福島県南相馬市立小高中学校のリスタート

星槎教育研究所　福井美奈子

4月に本校舎へ戻ってから、校舎がとても広く感じられました。仮設校舎では職員室の目の前にあった教室は向かいの棟になり、生徒たちは時折校舎内で迷子になることもあります。通学路にはやっと再建を始める家々が工事中で、未だ小高に帰れない生徒のためのスクールバスが走っています。これまでとは違う部分もあるが、先生方や生徒たちの笑顔は変わらずあります。少しずつ以前の暮らしに近づけるように少しでも力になりたいと思っています。

SEISA コミュニティ FM「湘南マジックウェイブ」開局！FM85.6MHz で、世界こども財団も情報を発信しています！

SHONAN MAGIC WAVE
SEISA COMMUNITY FM 85.6MHz

2017年4月23日（日）、星槎グループのコミュニティFM「湘南マジックウェイブ」の放送局が、世界こども財団の事務局と同じ、星槎湘南大磯キャンパスに開局しました。周波数85.6MHzで二宮町、大磯町、中井町の三町を聴取エリアとし、毎日地域のみなさんのお役に立つ情報や、楽しい番組を配信しています。また、インターネット（ホームページ：www.fm-smw.jp）では世界中から放送を聴くことができます！
世界こども財団でも、活動のご紹介や、イベント等の情報発信をしていきます。ぜひ、お楽しみください！

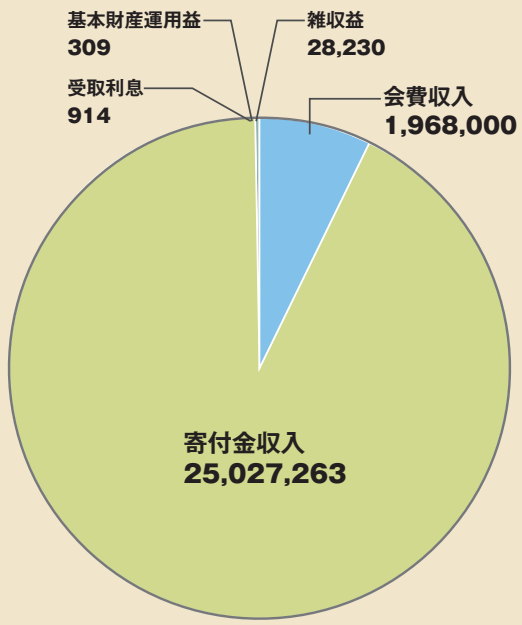
2017年6月には、エリトリアのエスティファノス駐日大使が星槎湘南大磯キャンパスを訪問。湘南マジックウェイブのスタジオも見学されました（写真右）

ときには、地域の「こどもリポーター」がラジオ収録のインタビューのためFGC事務局を訪ねることも

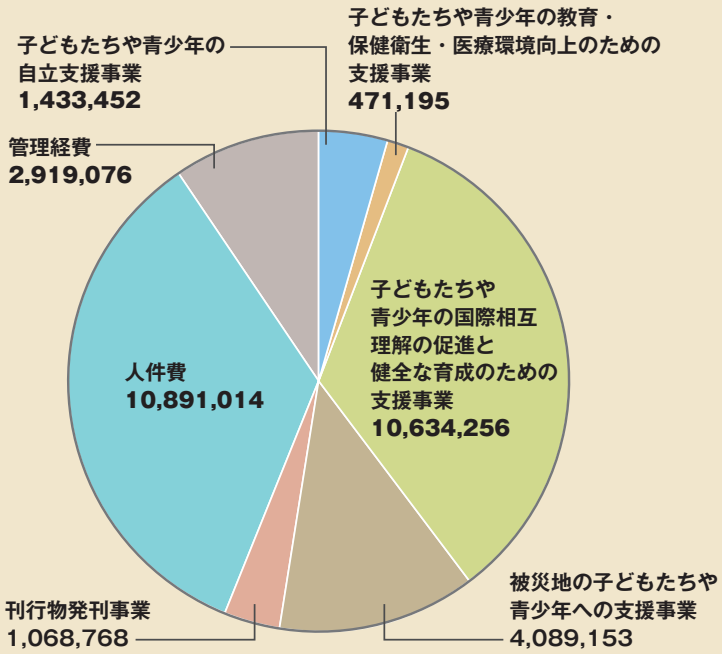
事務局より

事業活動収支報告（2016年1月1日～2016年12月31日／単位：円）

収入【27,024,716円】



支出【31,506,914円】



※上記内訳は、「2016年1月1日～12月31日の収支報告書」に基づき算出されたものです。

2017年2月～2017年5月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	（円）	寄付コラボ商品	（円）
本	66,910	大磯CA　トイレットペーパー納品より	7,520
櫻井幸雄氏作カレンダー販売収支差額より	30,000	大磯CA　茶綿手ぬぐい、竹販売収支差額より	6,500
カード類（テレカ・図書カード・各種金券等）	2,500	自動販売機（メーカー19社）　売上より	1,018,348
合　計	99,410	合　計	1,032,368

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。

ご協力いただいている企業・団体様（順不同）2017年2月～2017年7月

●アマチュア無線関係の皆様 ●㈱トキコ・プランニング ●㈱ルミネ ●㈱ルミネクリエーツ ●㈱DOE ●コグメド・ジャパン㈱ ●㈱全日警横浜支社 ●山下寝具㈱ ●㈲オク・インターナショナル ●㈱興学社 ●㈱ユーミーホールディングス ●東海プラント㈱ ●はやし亭 ●フルサワ印刷㈱ ●道東基礎工業㈱ ●伊藤平左エ門建築事務所 ●エリトリアオリンピック委員会 ●㈳日本ミャンマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●横浜リテラ ●㈱バリューブックス ●㈱湘南ウイル ●㈱ダイドードリンコ ●西武商事㈱ ●コーシンサントリービバレッジ ●㈱八洋府中営業所 ●コカ・コーライーストジャパン㈱ ●コカ・コーラウエスト㈱ ●北海道コカ・コーラボトリング㈱ ●東京キリンビバレッジサービス㈱ ●北海道キリンビバレッジサービス㈱ ●キリンビバレッジバリューベンダー㈱ ●北海道ベンディング㈱ ●㈱ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事㈱ ●㈲安田コーポレーション ●大蔵屋商事㈱ ● FVイーストジャパン ●合同会社SV北陸 ●㈲山川屋 ●武蔵野学院 ●ワットマンスタイル二宮店 ●ツルセミ ● NPO法人 劇団新制作座 ●㈱大塚商会 ●東京体育用品㈱ ●共栄建設㈱ ●㈲小澤フーズ ●星友会 ●星睦会 ●星親会 ●㈲ケンセー ●箱根建設㈱ ●㈱JTBコーポレートサービス ●ひまわりの会 ● NPO法人 打鼓音 ●㈱矢部プロカッティング ●㈲小澤フーズ

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

上から ●エリトリアの留学生と星槎学園湘南校生徒の交流 ●ブータン王国との事前キャンプ協定調印式 ●ミャンマー柔道代表チーム、星槎道都大学にて ●エリトリア、デンデンキャンプでの打鼓音の演奏 ●外務大臣表彰式にて（左から）FGC宮澤副理事長、薗浦外務副大臣、同じく表彰されたゾマホンさん、城内衆議院議員

2017年8月発行
公益財団法人 世界こども財団
〒259-0111　神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2（星槎グループ内）
TEL. 0463-74-5359　FAX. 0463-74-5374　E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ：http://www.fgc.or.jp　Facebook：「世界こども財団」で検索！
印刷：フルサワ印刷株式会社　制作：岡村直実（JCユニット）